



サルから農作物を守りましょう

近年、野生鳥獣による農作物被害が市内各所で深刻な問題となっており、多くの被害が報告されています。ここでは、野生鳥獣の中でも特にその被害が深刻なサルから農作物を守る対策についてお知らせします。

サルによる農作物の被害

農林水産省の調査によると、平成18年度の全国でのサルによる農作物の被害金額は、前年度に比べ約17%増の約16億円となっており、増加傾向にあります。

市内では、西部地域を中心に、井田川地区や加佐登地区などでも家庭菜園や学校の畑、果樹などが荒らされる被害が増加しています。

心を込めて育て、収穫を待ち望んでいた作物が被害にあうことによる精神的なショックも、深刻な問題となりつつあります。



サルによって食い荒らされたクリの実（加佐登町）

サルの行動・特性

- 数十頭の群れでえさ場からえさ場へ移動して暮らしています。一部のオスザルは成長すると群れを出て離れザルになります。
- 移動範囲は数キロから十数キロといわれ、昼行性で、夜はえさ場の近くの森の中で過ごします。
- 本来は臆病で、人の気配のする所まで出没することはまれでしたが、近年では農作物の味を覚えて何度も人里に来るようになり、人間に慣れたサルも存在します。



サルはなぜ畑を荒らすの？

えさの確保は、サルにとって生きていく上で最も大切なことです。自然界と比べ、畑にはおいしいえさがあり、また、容易に手に入ると考えています。特に、冬になるとえさとなる木の实が減少するため、えさの確保に苦労します。人里の畑には、冬でも野菜や果樹類が実っており、安定した格好のえさ場になります。

サルから農作物を守るには？

●サルのえさとなる物を放置しない

サルに食べられたら困る物は収穫用の農作物だけではありません。人間にとっては必要のない物でもサルにとってはえさとなります。自分には必要がないからといって、畑に残り物などを放置することは、え付けを行っていることと同じです。収穫後の畑にサルのえさとなる物を残さないようにしましょう。

また、お墓のお供え物もサルのえさになります。サルの被害が発生している場所では、お墓のお供え物を回収するよう心掛けましょう。

○残してはいけない物

収穫後の残り物（サツマイモのつる、不要となった野菜の葉など）、稲のひこばえ、傷んで収穫できない野菜や果実、お墓のお供え物、生ごみなど

●サルの隠れる場所を作らない

サルはえさ場近くの山林や茂みに身を潜めます。下草の刈込み、余分な枝の伐採をこまめに行い、サルの隠れ場所を作らないようにしましょう。

●サルを見たらみんなで協力して追い払いましょう

サルを見たら追い払いましょう。ロケット花火や大声、大きな音を立てながら追い払う方法があります。犬を連れて散歩することも効果的です。一人で行うより大勢で行うことで、集落に近付かなくなります。

サルが農作物を食べているのを見かけたら、「自分の田畑ではないから」と言わずに積極的に追い払ってください。人家と田畑が混在している場所では、農作物に被害があれば、いずれは人家にも被害が及ぶ可能性があります。追い払うことができます。自分の土地や他人の土地にかかわらず、サルを見かけたら追い払うようにしてください。

このような地道な取り組みが、サルから農作物を守る大きな力となります。皆様のご協力をお願いします。